



拓北・あいの里地区社協ミニ通信

拓北・あいの里地区社会福祉協議会

会長：渡邊 寛 広報部長：森下 満

この広報紙は赤い羽根共同募金の支援を受けています

No 100

令和 7年 8月 22日

**8月6日(水)に社協常任理事会が行われました。
各部の活動状況と今後の予定についてご報告します。**



7月の札幌の平均気温は平年より
4.8℃も高く、記録的な暑さとなり、寝
苦しい日が続きました。みなさん、体
調管理に留意してください。

■ ボランティア企画部より ■

- 生活支援ボランティアの活動は、6月中旬の花畑のパーゴラの腐食部の処理と、7月下旬の西日の入る窓にスモークフィルムを貼る作業の2件を実施しました。この他に庭草処理の依頼もありましたが、この猛暑と作業に伴うぎっくり腰の危険性を考慮し、お断りするようにしています。

■ 総務部より ■

- 拓北・あいの里版認知症見守り SOS ネットワーク体験会を、認知症サポーター講座と認知症高齢者徘徊搜索模擬訓練をセットで行うことで検討しています。認知症高齢者徘徊搜索模擬訓練とは、認知症で行方不明になった方を無事に保護するため、その発見から声掛け・保護までの一連の流れを訓練し、認知症の方について「人として尊重する精神」が根本にあることを発見しようとするものです。
- 令和7年度福祉除雪説明会及び意見交換会を、8月30日(土)14時から、地区センター1階多目的ホールにて開催の予定です。

■ ふれあい交流部より ■

- 8月7日(木)の「ひまわりクラブ」は地区センター和室に5組10名の親子さんが参加され、自由遊び、絵本の読み聞かせ、手遊び歌を楽しみました。子育て支援センター、保健師の方とお母さんとの育児相談、体重測定、朝顔のフォトスポットコーナーでの写真撮影、お誕生月のお子さんへのプレゼント、ハッピーバースデーソングをみんなで歌う、など、盛りだくさんのプログラムでした。

次回は9月2日(火)10:00~11:30、拓北ひまわり会館にて開催予定です。

また、8月29日(金)10:00~11:30、地区センター多目的ホールにて、親子さんたちを対象とした「ぽかぽかふれあい広場」を開催予定です。

- 7月24日(木)の「福まちサロン」は拓北会館を予定していましたが、エアコンが無く、熱中症のリスクが高まると懸念し、中止としました。今のところ振り替え案として10月後半を考えています。

次回は9月25日(木)10:00~11:30、拓北パレス会館にて開催予定です。



8月6日の常任理事会の様子



地区センター28名、オンライン1名、合計29名が参加した、7月15日の地域ケア部の例会



5組10名の親子さんたちが参加した、8月7日のひまわりクラブで、絵本の読み聞かせをしているところ



ひまわりクラブの今月のフォトスポットは“朝顔”

■ 地域ケア部より ■

7月例会は15日(火) 18:30~20:00、地区センター2階集会室にて、介護予防センター茨戸・保健師・中村しず香(なかむら・しずか)さんをゲストに「介護予防センター茨戸とは?」をテーマに、地区センター2階集会室にて話題提供をいただき、意見交換を行いました。

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行われ、参加者は地区センター28名、オンライン1名、合計29名。

話題は、1.保健師とは?、2.札幌市介護予防センターとは?、3.今後の予防センターの活動に対する提案、の3点です。

1.保健師とは?：中村さんご自身の専門職である「保健師」とは、住み慣れた地域で自分らしく元気に暮らし続けるために、地域のみなさんの健康を支える予防の専門職であり、「暮らしの中で支える看護」＝地域看護の担い手です。ただし、主役はあくまでも住民のみなさんであり、保健師は住民主体の地域づくりをそっと支える「黒子役」であり、病気になる前の「困り事」や「気になる変化」に気づき、寄り添うこと、医療・福祉・地域を繋ぎ、支援の仕組みを見えないところで整えること、等をおこないます。

保健師の活動は、地域看護の3つの視点から成り立っています。①生活者としての視点：病気だけを見るのではなく、その人の暮らし・生き方・価値観を尊重する。(例：介護が必要でも、自宅で暮らしたいという思いに寄り添う) ②地域全体を見る視点：個人支援だけでなく、地域全体の健康課題を把握し、予防や仕組みづくりにつなげる(例：閉じこもりがちな高齢者が多い→地域サロンをつくる) ③支え合いを育てる視点：専門職が支えるだけでなく、住民同士のつながりや助け合いを大切にする(例：見守り活動、ボランティア育成)。

地域看護を実践する看護師は、地域の中で以下のような視点をもって活動しています。①「その人の暮らしの場」に入ることそのものが看護であるとの視点からの「家庭訪問」、②参加者同士のつながりも生まれる仕掛けづくりの視点からの「健康教室」、③“住民主体”で動ける場をつくる黒子役の視点からの「地域づくり」、の3つです。

2. 札幌市介護予防センターとは?：中村さんの職場であり、保健師の活動拠点でもある札幌市介護予防センターは、元気な人が、ずっと元気に住み慣れた地域で生活するために、介護予防の必要性を地域のネットワークを利用して普及啓発する機関です。札幌市の一般介護予防を担う主たる機関であり、札幌市独自の事業として市内に53ヶ所設置されています。保健福祉職の資格をもつ専門職員が専任として2人体制で運営しています。

介護予防センターの主な業務は、①総合相談支援(地域からの相談受付)、②介護予防教室の実施及び介護予防普及啓発(すこやか)、③地域介護予防活動支援(地域ケア会議・町内会サロン)、です。これを地区関係機関(北区第2地域包括支援センター拓北・あいの里支所、北区保健支援係、北区社協(第1第2層生活支援コーディネーターを含む)、まちづくりセンター、民生委員、地区社協、等)と連携しながらすすめています。高齢者の状況にあわせ、介護予防センターは対象地域の65歳以上の元気な方を、地域包括支援センターは65歳以上の方について生活機能の低下がみられた方及び要支援1と2の方に介護予防プランを作成し、居宅介護支援事業所はケアプラン作成を基に要介護1～5の方を対象に、担当分けをしています。

3.今後の予防センターの活動に対する提案：最後に、中村さんは会場の参加者に活動の助言、提案を求められました。会場からは、人々が集まる条件として、①一緒に食えること、飲むこと：例)日よけにゴーヤーを育て、食べる、ジンギスカンをする、鮭一匹丸ごと料理する、②誰の目にも入るよう、公開の場所でおこなうこと：閉鎖的な室内等ではなく、③女性は男性を引き連れてくる：その逆はない、といった意見が出されました。

なお、8月例会は19日(火) 18:30~20:00、地区センター2階集会室にて、石狩市認知症地域支援推進員(株式会社 Sun・Ju・想/主任介護支援専門員)・木元国友(きもと・くにとも)さんをゲストに「認知症にやさしいまちを目指して～注文をまちがえるレストラン in いしかりの取り組みを中心に」をテーマに、話題提供をいただき、意見交換を行いました。その内容については次号の101号で報告いたします。

◇ 今後の予定 ◇

9月例会は16日(火) 18:30~20:00、地区センター2階集会室にて、札幌認知症の人と家族の会 監事・下村笑子(しもむら・えみこ)さんをゲストに「夫の介護をめぐって今自分が思う事...介護保険制度の矛盾点を皆で考えましょう!」をテーマに、話題提供をいただき、意見交換を行う予定です。

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行います。「ケア施設町内会会員メーリングリスト」登録者にはZoomアクセス情報をお知らせします。その他の方はケア施設町内会事務局・長谷川までメール takuai.jimu@gmail.com でお問合せ下さい。